

令和 6 年度 第 3 回神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和 7 年 3 月 17 日（月）13：30～15：00

場所 鎌倉高等学校 国際理解ホール

出席者（敬称略）

（委 員）田邊克彦会長、青木弘副会長、永野征男、齋藤貴、菅野喜八、牛見誠人、
佐藤弘一、岡田雅彦

（事務局）佐藤文美、椿みどり、長谷川千栄子、伊藤剛、佐藤靖彦、石川比呂子、永山悦子、
千葉大介、良田直優、稲葉啓太、喜納悠大

（欠席者）渡辺晃、瀧澤博、末次健治

議事録（●は発言要旨）

【1. 校長挨拶】

- 一年間の取組内容について、成果や課題が見えてきた。次年度に向けて改善点をいただきたい。
- 令和 7 年度公立高等学校入学者選抜や卒業式は無事終了した。3 月 14 日は探究活動の発表会を実施し、横浜国立大学附属鎌倉中学校の教育学部職員 2 名に参加していただいた。
また、かながわ探究フォーラムに本校から 2 名の生徒が参加し、他校の生徒の質問や指摘を受け、よい刺激となった。

【事務局より】

- 本会は、学校評価部会を兼ねており、キャリア部会は本会終了後実施する。

【2. 協議事項】

(1) 令和 6 年度学校評価報告書（実施結果）について

ア 教育課程・学習指導

○ 教務グループ：

- 教務 G を中心に、組織的な授業改善を行った。具体的な取組は次の 2 つである。
- 1 つは他教科も含めた授業参観の取組である。もう 1 つは、生徒による授業評価アンケートをもとに項目 6 の結果を指標として授業改善を実施した。第 1 回の結果と比較して、評価 4 を回答した割合が 50%を超える教科数に変化はなく、授業改善の結果が数値に反映されていない。
- 質問項目 3 と質問項目 6 に相関関係がみられるのではないかと考えている。このことから、単元のまとまりの中で課題解決の場面設定を増やすことが重要ではないかと考えている。
- 各教科で、授業評価アンケート結果の振返りを実施した。来年度に向けてどのような取組で、どのような変容が見られたかを全体で共有していきたい。

○ 学習企画グループ：

- 公開研究授業を実施し、また、スーパーサイエンスハイスクール（以降 SSH）への申請を行った。
- 公開研究授業について、今年度は2つのテーマを設定し行ったが、テーマが複数あるとわかりづらいとの意見が出たことから、来年度はテーマを絞りたいと考えている。
- SSH事業について、今後は探究活動を軸に推進していきたい。来年度から、理数探究基礎が2単位に増加するので、これまでの取組をより進めていきたい。

○ 齋藤委員：

- 授業改善について、評価はアンケートにて実施しているが、その前に授業計画や共通認識の確認などは行っているか。

○ 学習企画グループ：

- 年度初めに教科会にて周知している。授業評価アンケートは、教務Gから提示している。公開研究授業については、テーマ設定が遅くなったため、授業計画が遅くなった。来年度は、4月の教科会で間に合うように計画している。

○ 齋藤委員：

- 課題解決に係る教員研修等を、年間3回以上とした根拠は何か。

○ 学習企画グループ：

- 日々の業務との兼ね合いからも3回が妥当なのではないかと考えた。

○ 青木委員：

- 課題研究発表会について、内容もそうだが、生徒の聴く姿勢もよかった。
- 授業改善をするにあたって、授業評価アンケートの項目6で非常に良い結果が出ているが、例えば、国語で見ると評価1と2を合計すると、人数的には100人ぐらいいる。そうしたボトムアップの方法も考えていくと面白いと思う。

○ 牛見委員：

- 授業評価アンケートの結果は肯定的に回答した生徒の割合が高く、評価できる。このことから、1年生ではできることをしっかり定着させ、3年間でしっかりと伸ばすとよいと思う。

○ 学習企画グループ：

- 質問項目6が低いのは、進学を考えたときに教科書の内容を全て扱うこと（受験指導）と、探究的な学びを同時に向上させていくのが難しいというジレンマがあるためではないか。受験にも対応しながら、時間を確保していく方法を、考えて提案していきたい。

イ 生徒指導・支援

○ 生徒会グループ：

- 各行事におけるアンケートの回答数が少なかったため、再度実施した結果、すべての行事で肯定的な意見だった。

○生活指導グループ：

- 中間報告と変化はない。
- 今年度は、生徒同士の SNS 関連のトラブルがあったことから、来年度に向けて注意喚起を継続したい。
- 教育相談に関して、教員と生徒の負担軽減の方法も検討したい。ただし、スクールカウンセラーおよびスクールソーシャルワーカーとのつながりが増えたことは大きな成果である。

○副校長：

- P T A 広報誌からもわかるように、部活動では活動実績があり、上位大会に参加するなど、よく頑張っている。ただし、顧問の勤務や練習時間の確保等が課題となっている。

○斎藤委員：

- 入部率はどの程度か。

○副校長：

- 1 年生の 6 月の段階では 86% 程度となっている。

○田邊委員：

- かながわ子どもサポートドックは 2 年目になったが、効果的な面などはあるか。

○生活指導グループ：

- 結果がデータとして残るので、潜在的な部分を掘り出すことはできるが、実際に面談すると、質問の趣旨に対する生徒の受取りが違っていたりする。ただ、広く生徒を見ることができるようになった。

○田邊委員：

- 保健室登校はあるのか。

○生活指導グループ：

- 保健室登校は認めていない。1 時間単位で相談に来ることはある。

○田邊委員：

- 保健室と教育相談の連携体制は整っているのか？

○生活指導グループ：

- 養護教諭、教員、所定のグループ等と連携はとれている。

○青木委員：

- 小中学校では、不登校児童・生徒等の支援として、地域などとのつながりを活用しているが、高校は校内だけで対応しているので、もう少し外部機関を活用してはどうか。

○岡田委員：

- 現在、総合教育センターにてフリースペースを設置したり、県立高等学校にて通信教育の仕組みを活用した仕組みづくりは行ったりしているが、今後どう取組を進めていくか検討していく必要がある。

ウ 進路指導・支援 / 地域等との協働

○副校長：

- 進路支援は手厚く実施している。入学予定者説明会にて、入学前から3年間を見通した進路計画を説明している。模試の振り返りの指導についても行っている。
- 今年度の進路結果についても、非常によく頑張っている。

○副校長：

- PTAの活動について、行事のサポートや安全面について連携が取れている。今後も持続していくこととともに、負担感の払拭が課題となっている。
- 藤沢支援学校とも密接に交流している。
- 部活動においても、地域との交流を実施している。

○佐藤委員：

- 教員との交流はあるが、生徒との交流がないので、生徒会との関りを模索するなどしていきたい。他校では、PTAと生徒会で意見交流の場を設けている事例もある。

○岡田委員：

- 生徒会との交流は、生徒にとってもいいのではないか。
- 地区の交通安全大会ではPTAと生徒がコラボして実施した。今後は取組を進められるとよい。

○田邊委員：

- 進路実績について、前年度までと比較して、何か特徴的なところはあるか。

○副校長：

- 結果の分析はまだ行っていない。

○キャリア支援グループ：

- 合格者講話を実施したが、自分の好きなことは何かを大切にしてほしいということを、在校生に伝えていた。また、もし好きなことがなければ自分の可能性を広げるような選択をするといいというようなことも伝えてくれた。
- 第一志望宣言を貰き、頑張った結果が出たのではないか。

オ 学校管理・学校運営

○教頭：

- 職員の服務管理や施設管理を電子化し、事務作業の効率化を図った。また、teamsのチャット機能で円滑な情報共有を行えるようになった。

○事務長：

- プールの改修工事、フェンスの修繕や、特別教棟の壁面など、今年度も多くの施設改修を行った。
- 生徒会館の修繕を神奈川県教育施設課に打診している。

○岡田委員：

- 広い敷地に海沿いという立地で、修繕の必要が多くある。生徒会館の修繕なども、要望を進めていきたい。

○田邊委員：

- 施設の建て替え工事の予定はないのか。

○事務長：

- 耐震工事を実施しているので、しばらくはないのではないかと。

○牛見委員：

- これまでの形式的な訓練ではなく、より実践的な避難訓練について、その方法を検討していかなければいけない。
- 地域からも、災害時に学生の支援を希望する声も上がっている。

○菅野委員：

- 昨年度地域の防災訓練を実施したが、避難先がかなり遠かったりする。もし、災害が起こった時に、現実的な可能な方法を模索していきたい。

○田邊委員：

- 自治体と県との連携は進んでいないのか。

○岡田委員：

- 県立高校は、各市町村と協定を結んでいるが、防災訓練に組み込まれるのは難しいところである。
- 災害時の避難のことも考えて、県立学校の体育館に順次エアコンを入れることが検討されている。

○永野委員：

- 生徒が最終的に進路を決定するときの決め手はあるか。例えば、資格の取得等が決め手となることはあるのか。

○キャリア支援グループ：

- 資格や世の中の動向に大きな影響を受けているようには見られない。ただ、情報系の学科は人気が高く、機械系は少ないという傾向はある。

(2)神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則第4条に基づく意見の申し出について

○田邊委員：

- 学校運営協議会設置規則において、設置者に対して意見を申し入れることができる。
- 特に反対の意見がなければ、学校側の要望を聞いてもよい。

(一同反対意見なし)

○ 岡田委員：

- 会議室にエアコンがついていない。神奈川県教育委員会では、教室、職員室には設置されているが、それ以外の場所は当初の対象にされていない。
- 勤務時間の弾力化が限定されているため、学校での裁量をもう少し柔軟にできるようにしてほしい。

○ 田邊委員：

- 校長から出た課題に対して、意見を申し入れるということによろしいか。

(全員了承)

○ 田邊委員：

- 全員賛同していただいたので、学校運営協議会として神奈川県に要望を出したい。

(3) その他

特になし。

【3. 報告・連絡事項】

(1) 令和7年度公立高等学校入学者選抜状況について

○ 教頭：

- 募集定員 319 名に対して受検者 420 名、合格者 319 名、競争率 1.32 となっている。

○ 田邊委員：

- 生徒の志望傾向にはどのような特徴があるか。

○ 牛見委員：

- 中学校から見ると、公立学校よりも私立学校への志願が多いように見える。今後、授業料無償化により私立学校へ増えていくのではないか。

○ 青木委員：

- インターネット上では、鎌倉高校は魅力が高いという意見も見られる。

○ 菅野委員：

- 生徒の満足度が高い学校ではないのか。今後も発展していったほしい。

(2) 学校運営協議会委員の任期について

○ 副校長：

- 学校運営協議会委員の任期は1年間となっている。ただし再任を妨げないと規則にあることから、ぜひ次年度もご協力をいただきたい。

(3) 令和7年度年間行事計画の主な予定

○ 岡田委員：

- まだ来年度の年間計画が確定していないが、熱中症対策の観点からも行事の配置を変更する方向で調整している。スポーツ大会は6月に実施できるように調整している。

(4) その他

特になし。

【4. 事務連絡・その他】

特になし。

令和6年度 第3回神奈川県立鎌倉高等学校 学校運営協議会
キャリア部会 議事録

日時 令和7年3月17日(月) 15:00～15:30

場所 鎌倉高等学校 国際理解ホール

出席者(敬称略)

(委員) 青木弘(部会長)、田邊克彦、牛見誠人、佐藤弘一、岡田雅彦
(事務局) 佐藤文美、長谷川千栄子、伊藤剛、佐藤靖彦、石川比呂子、永山悦子、
千葉大介、良田直優、稲葉啓太、喜納悠大

議事録(●は発言要旨)

○キャリアグループ:

- 本日は合格者講話であった。今年度は合格した生徒5名に講話をしてもらった。
- 今年度は一般入試の生徒だけでなく、総合型選抜を活用した生徒にも講話をしてもらった。

○牛見委員:

- 第一志望を貫かせるという指導を行っているようだが、これは生徒にとってどのような反応であるか。

○キャリアグループ:

- 生徒たちは自分の今の実力にあった大学を志望するというよりは目標となる大学を志望している。第一志望を変更する生徒も一部存在する。

○学習企画グループ:

- 2学年の代表をしているが、いわゆる難関大学を選ぶ生徒が多い印象である。
- 1・2年生で継続して指導してきたのは、自分が将来やりたいことをできる大学を選び、高い目標を持つということである。
- 生徒たちは高い目標を持ち、それを貫き通そうとしている。これに応えるのは我々職員の仕事である。

○佐藤委員:

- 最近、大学ではいわゆる「女子生徒枠」の募集があるが、これについては学校ではどのように指導しているか。

キャリア支援グループ:

- 保護者対象の進路説明会の中で、女子生徒枠や神奈川県枠という枠を設けられている大学を紹介し、全体に対する定員の割合などを紹介している。

田邊委員：

- 第一志望宣言については生徒が1年生のときから実施しているのか。

○キャリア支援グループ：

- 実際に生徒が第一志望宣言を記入し、提出するのは2年生だが、1年生から進路説明会で2年生時に提出することを伝えている。

○田邊委員：

- 3年生たちは、今回の合格者講話で、第一志望宣言についての話はあったか。

○キャリア支援グループ：

- 今回の合格者講話では1年生のときから第一志望が決まっていたという生徒もいれば、3年生になってから決まったという生徒もいた。第一志望宣言については、親子の話し合いのチャンスであるとも捉えている。

○青木委員：

- 鎌倉高校のキャリア支援は、とても充実した取組であると思う。これだけ先生方が密接に取り組んでいただけるからこそ人気の学校なのかなと思う。
- 最近、中学では課題解決に力を入れていこうという動きになっているが、生徒は3年生になるとみんな塾に行ってしまう。学習指導要領では知識だけではない力を求めているが、受験の時期になると知識が求められる。結局、両方求めくてはいけないのかなと思っている。みなさんはどうお考えか。

○牛見委員：

- 個別具体的な学びを重視しており、受験で必要な知識を身につけるという意味では、どうしても同時にやっていくしかないと考えている。

○青木委員：

- それでは、これにて終了します。

○岡田委員：

- 鎌倉高校全体として、生徒の進路実現のための学びに取り組んでいきたい。皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。